

挨拶の大切さ

令和3（2021）年11月8日発行



「挨拶の大切さ・感謝の気持ち」



先日、校舎の改修工事で仕事をしている方から学校にこのようなお話がありました。「工事をしていると、高等部生徒から『お疲れ様です。頑張ってください』との言葉をかけられました。」その言葉を聞き頑張ろうという気持ちになりました。「ありがとうございます」は、もちろん直接的に感謝を伝えられる手段ですが、「お疲れ様」は「今日もお世話になりました」という意味も込められています。「感謝」の気持ちを込めて挨拶をすれば、相手にもきっと伝わると思います。心のこもった挨拶は、自分にも返ってきます。自分から心を開くと周りの人も安心して心を開いてくれるのではないのでしょうか。

今年度は、「人と関わる力の向上」を重点目標の一つに掲げ取り組んでいます。日常生活に必要な挨拶・返事が自分からできるよう挨拶運動に取り組んでいるところです。児童生徒がどこに行っても、誰にでも自分から挨拶ができるような態度を身に付けてほしいと思います。しかし、挨拶の習慣化には繰り返しの指導が必要になります。ぜひ、学校での取組を地域や家庭に広げ、自分からの挨拶を心掛け習慣付けていきましょう。

本校のキャリア教育 重点目標を踏まえた具体的な取組について

今年度の重点目標の一つに児童生徒の自立・社会参加に向けたキャリア教育の充実、各学部段階及び児童生徒の実態に応じた「人の関わる力」の向上を目指した指導について取り組んでいます。その様子について紹介いたします。



挨拶運動週間

（1）重複障害学級の取組

重複障害学級では、自分のできる方法で挨拶に取り組んでいます。大きな声で挨拶する子、自分の出せる声で挨拶する子、視線を合わせて挨拶する子、体を動かして挨拶する子、表情で挨拶する子など様々です。それぞれの児童生徒に合わせた表現で、先生とだけでなく、友達同士でも挨拶ができるように関わりを大切にしています。



「友達と挨拶」

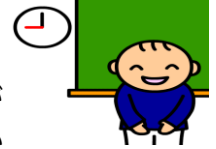


「目を合わせて」



「手を合わせて」

(2) 小学部の取組



小学部では、児童一人一人に合わせた挨拶の目標を設定し、指導に取り組んでいます。5月から継続的に学習することで、「自分から会釈をすることが増えた」「少しではあるが相手の顔を見るようになった」と挨拶に対する児童の意識が変わってきていることがわかります。「今の挨拶、よかったよ」「挨拶すると気持ちいいね」など言葉掛けをして児童の自己肯定感を高め、自分から挨拶しようとする意欲につなげていきたいと思います。



「おはようございます」



「今日もがんばります」



「顔をあわせて」

(3) 中学部での取組

中学部では、昨年度より生徒たちが一人一人の「あいさつシート」を活用して取り組みを続けています。学校生活の朝と帰りの場面で、挨拶ができているか毎学期ごとに担任の先生方と確認し合いながら「あいさつ名人」を目指して意識を高めています。また今回の挨拶週間は、ちょうど校内実習と重なり「作業場の言葉」の習得にも力を入れて取り組めた生徒が多く見られ、頑張っていました。



「職場での挨拶」



「笑顔で挨拶」



「校長先生に挨拶」

(4) 高等部の取組

産業現場等における実習において、多くの会社や施設から学校で身につけてもらいたいことの一つに「挨拶や返事をする事」があります。これから社会の中で生活していく上で大切なコミュニケーションでもあります。また、先日卒業生を雇用している「(株)アムコ」の佐藤工場長さんが高等部生への話の中で、社員が職場でのうれしい言葉は、1番は「おはようございます」、2番は「お疲れ様でした」、3番目は「ありがとう」であると言っていました。学校でもこのようなうれしい言葉の挨拶やたくさんの笑顔が見られる高等部にしていきたいと思います。



「高等部生がリーダーとなって」



「元気な声で」



「心を込めて」